

### Ⅲ 耕地の利用状況

#### 1 夏期における田本地の利用状況

(1) 平成28年夏期（おおむね水稲の栽培期間）における田本地の利用状況をみると、水稲作付田は161万1,000ha（青刈り面積を含む。）で、前年に比べ1万2,000ha（1%）減少し、水稲以外の作物のみの作付田は41万5,900haで、前年並みとなった。

また、夏期全期不作付地は26万9,700haで、前年並みとなった。

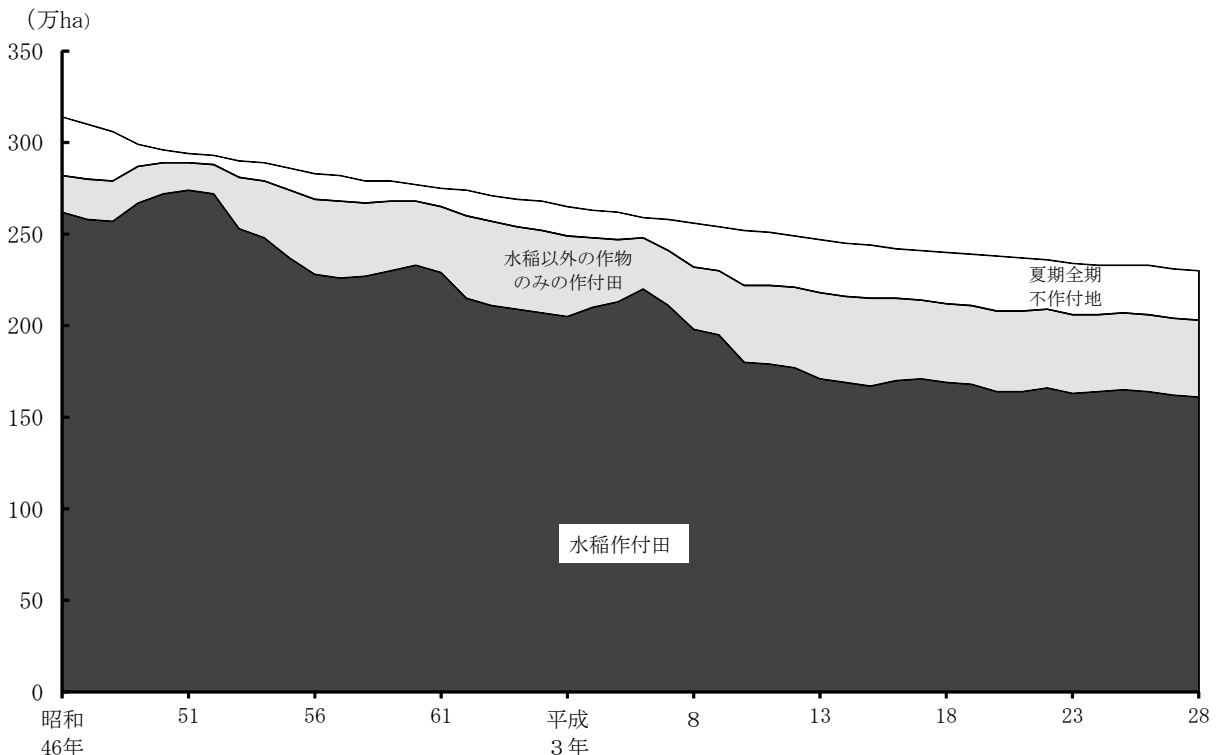
この結果、田本地に占める水稲作付田の割合は70.2%、水稲以外の作物のみの作付田の割合は18.1%、夏期全期不作付地の割合は11.7%となった（表16）。

表16 平成28年夏期における田本地の利用状況

区 分	面 積	前年との比較		構成比
		対 差	対 比	
	ha	ha	%	%
田 本 地	2,296,000	△ 14,000	99	100.0
水 稲 作 付 田	1,611,000	△ 12,000	99	70.2
水稲以外の作物のみの作付田	415,900	△ 1,400	100	18.1
夏期全期不作付地	269,700	△ 200	100	11.7

(2) 夏期における田本地の利用状況の動向をみると、昭和45年に米の生産調整が実施されて以降、米の生産調整面積の変動による増減はあるものの、水稲作付田は減少傾向で推移し、夏期全期不作付地については増加傾向で推移している（図12）。

図12 夏期における田本地の利用状況の推移



## 2 農作物作付（栽培）延べ面積及び耕地利用率（平成28年）

(1) 田の農作物作付（栽培）延べ面積は225万7,000haで、前年並みとなった（表17）。

これは、水稻（子実用）等の作付面積が減少したものの、飼肥料作物、麦類（子実用）、豆類（乾燥子実）等の作付（栽培）面積が増加したためである。

田の耕地利用率は92.8%で、前年に比べ0.3ポイント上昇した（表17）。

(2) 畑の農作物作付（栽培）延べ面積は184万5,000haで、前年に比べ1万9,000ha（1%）減少した（表17）。

これは、雑穀（乾燥子実）の作付面積が増加したものの、飼肥料作物、野菜、果樹等の作付（栽培）面積が減少したためである。

畑の耕地利用率は90.5%で、前年に比べ0.4ポイント低下した（表17）。

(3) この結果、田畑計の農作物作付（栽培）延べ面積は410万2,000haで、前年に比べ2万5,000ha（1%）減少した（表17）。

田畑計の耕地利用率は91.7%で、前年並みとなった（表17）。

表17 平成28年農作物作付（栽培）延べ面積及び耕地利用率

区 分	田 畑 計				田			畑		
	作付（栽培） 延べ面積	前年との比較		耕 地 利用率	作付（栽培） 延べ面積	前年との比較		作付（栽培） 延べ面積	前年との比較	
		対差	対比			対差	対比		対差	対比
	ha	ha	%	%	ha	ha	%	ha	ha	%
作付（栽培）延べ面積	4,102,000	△ 25,000	99	91.7	2,257,000	△ 6,000	100	1,845,000	△ 19,000	99
水陸稲（子実用）	1,479,000	△ 27,000	98	33.1	1,478,000	△ 26,000	98	1,050	△ 230	82
麦類（子実用）	276,000	1,400	101	6.2	173,300	1,900	101	102,700	△ 500	100
かんしょ	36,000	△ 600	98	0.8	2,690	△ 20	99	33,300	△ 600	98
雑穀（乾燥子実）	62,200	2,500	104	1.4	38,500	1,500	104	23,700	1,000	104
豆類（乾燥子実）	187,700	100	100	4.2	124,300	1,800	101	63,400	△ 1,700	97
野菜	521,300	△ 5,000	99	11.7	139,500	△ 1,100	99	381,800	△ 4,000	99
果 樹	226,700	△ 3,500	98	5.1	-	-	nc	226,700	△ 3,500	98
工芸農作物	150,400	△ 700	100	3.4	6,660	200	103	143,700	△ 900	99
飼肥料作物	1,082,000	10,000	101	24.2	269,400	17,300	107	812,200	△ 8,100	99
その他作物	80,900	△ 1,300	98	1.8	24,700	△ 800	97	56,200	△ 500	99
耕 地 面 積	4,471,000	△ 25,000	99	…	2,432,000	△ 14,000	99	2,039,000	△ 11,000	99
耕 地 利 用 率	91.7%	△0.1ポイント	…	…	92.8%	0.3ポイント	…	90.5%	△0.4ポイント	…

注：耕地利用率とは、耕地面積を「100」とした作付（栽培）延べ面積の割合である。

$$\text{耕地利用率（％）} = \frac{\text{作付（栽培）延べ面積}}{\text{耕地面積（7月15日現在）}} \times 100$$

(4) 作付（栽培）延べ面積の動向をみると、昭和40年代は麦類を中心とした水田裏作の減少に加え昭和45年から始まった米の生産調整による不作付地の急増により、田を中心に大幅に減少を続けてきたものの、昭和49年以降は麦類の生産振興による作付回復等からほぼ横ばいで推移してきた。昭和60年以降は麦類に加え豆類等も減少し、平成10年からは米の需給調整対策の推進等から麦類、豆類等の作付けは増加したものの、総体的には減少傾向で推移している（図13）。

(5) 耕地利用率の動向をみると、昭和40年には123.8%であったが、その後も低下傾向で推移し、平成6年には100%を下回った。その後は平成11年に、前年に比べ0.3ポイント上昇したものの、ほぼ低下傾向で推移し、平成23年以降はほぼ横ばいで推移している（図13）。

図13 農作物作付（栽培）延べ面積及び耕地利用率の推移

